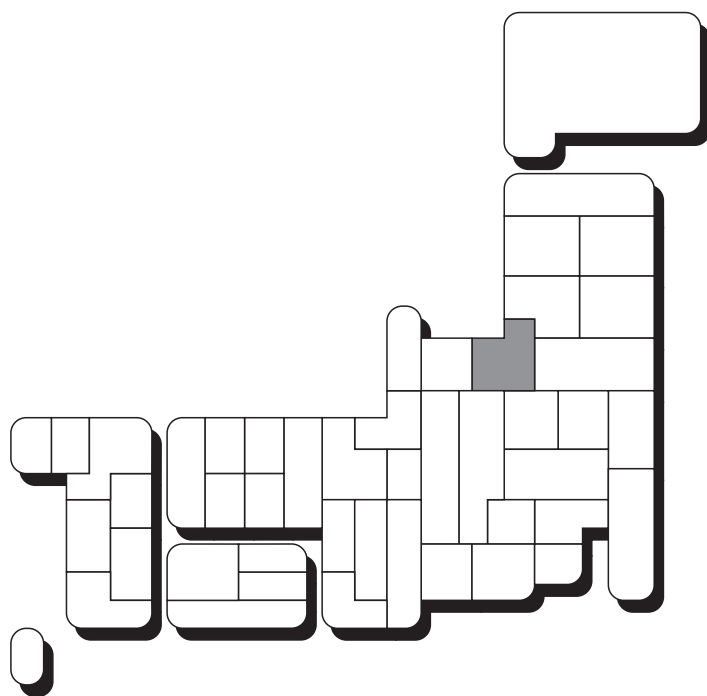

日本民俗学会

第65回年会 プログラム



日本民俗学会第65回年会実行委員会

日本民俗学会第 65 回年会日程

2013 年 10 月 12 日(土)

- 9:30-10:00 理事会(新潟大学 総合教育研究棟 F273)
- 10:00-12:00 評議員会(新潟大学 総合教育研究棟 F271)
- 12:00- 受付開始(新潟大学 総合教育研究棟 2F 学生玄関)
- 13:00-16:30 公開シンポジウム「川—水をめぐる対立と融和—」
(新潟大学 総合教育研究棟 E260)
赤羽 正春「水をめぐる「伝承の象徴化」—地域資源の水と鮭—」
加藤 幸治「河川開発と水資源をめぐる対立と融和
—“紀州流”工法から現代の大規模河川改修へ—」
金子 祥之「水害を均衡化する仕組みとしての水利慣行
—利根川・布鎌地域を事例として—」
湯川 洋司「ダム建設計画をめぐる対立と融和
—熊本県の川辺川ダムを例に—」
パネルディスカッション
コメンテーター 菅 豊
司会 飯島 康夫
- 16:30-17:50 研究奨励賞授与式・会員総会(新潟大学 総合教育研究棟E260)
- 18:15-20:15 懇親会(新潟大学 生協第一食堂)

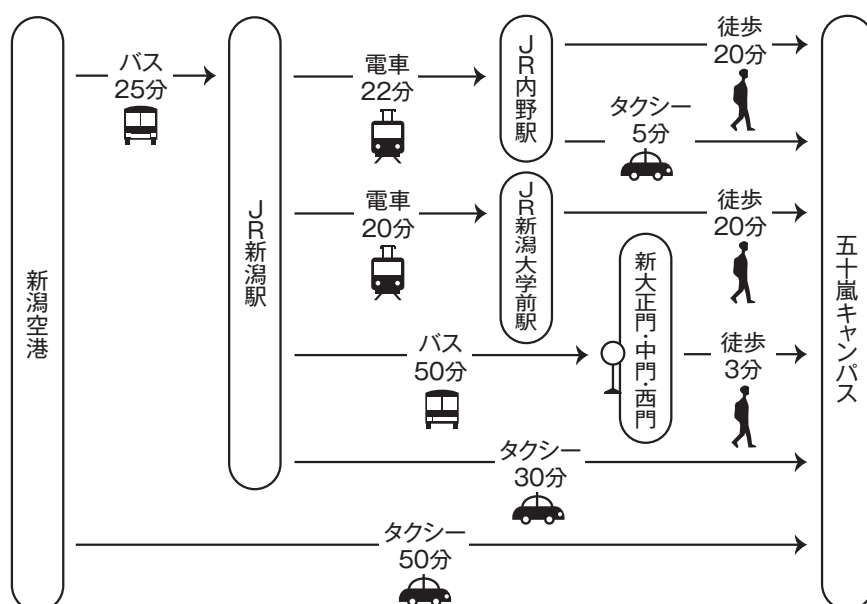
2013 年 10 月 13 日(日)

- 9:00- 受付開始(新潟大学 総合教育研究棟 2F 学生玄関)
- 9:30-11:55 研究発表(午前)(新潟大学 総合教育研究棟)
- 12:00-13:00 昼休憩
- 13:00-15:25 研究発表(午後)(新潟大学 総合教育研究棟)
- 13:00-15:55 日本民俗学会国際シンポジウム
「無形文化遺産政策のホットスポット・中国—中国民俗学の経験から学ぶ—」
(新潟大学 総合教育研究棟 B253)
菅豊 「中国の無形文化遺産から学ぶために」
陳勤建「民俗学者と現代中国の無形文化遺産保護」
葉濤 「中国民俗学会と中国の無形文化遺産保護業務」
陳志勤「地方の無形文化遺産保護およびその多様な主体の役割について
—「紹興舜王廟会」を例に—」
施愛東「無形文化遺産保護運動において民俗学が直面する諸問題」

2013 年 10 月 14 日(月)

- 8:30 -16:00 見学会(申込者へは詳細を別添しております。ご参照ください。)

《新潟大学への交通案内図》



【会場】新潟大学五十嵐キャンパス

所在地：〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地

【交通手段】

1. 飛行機（新潟空港～JR新潟駅）

新潟空港からJR新潟駅までバスで25分。運賃400円。

2. JR（JR新潟駅～新潟大学）

JR新潟駅からJR越後線で20分、JR新潟大学前駅降車。運賃230円。駅から徒歩20分。JR内野駅降車の場合は、駅からタクシー5分、徒歩20分。

3. バス（JR新潟駅～新潟大学）

JR新潟駅万代口近くの新潟駅前バスターミナルのりば7番線から新潟交通バス（西小針線西小針経由新潟大学行き、または新潟大学経由内野営業所行き）に乗車して50分、新潟大学西門停留所「新大西門」降車。運賃460円。バス停から徒歩3分。

4. 自家用車（高速道路新潟西IC～新潟大学）

北陸自動車道新潟西IC下車、新潟西バイパス高山IC下車、一般道で新潟大学へ。約20分。

【駐車場について】

新潟大学敷地内の駐車場は、正門横・西門横に2カ所あります（p.3 構内図参照）。

しかし、土休日は、図書館等を利用する学生・一般市民が自由に駐車することができます。また、年会期間中には、学内で別の学会が開催される予定です。このため、駐車可能台数が非常に限られることが見込まれます。

大学周辺には有料駐車場がございませんので、自家用車をご利用の場合は、上記につきましてあらかじめご承知くださいますようお願いいたします。

This map illustrates the location of Niigata University and its proximity to various transportation hubs. The university campus is centrally located, with its main entrance (新大正門) and other gates (新大西門, 新大中門) clearly marked. To the west, the Niigata University Station (新潟大学前駅) is situated on the JR Echigo Line (JR越後線). The map also shows the Niigata Expressway (新潟西バイパス) running along the bottom, with interchanges (IC) at Takayama (高山IC) and Niigata (新潟IC). Other landmarks include the Niigata University of Engineering and Technology (新大工学部前) to the northwest and the Niigata University of Education (新潟大学教育学部) to the east. The map includes a compass rose indicating North (N) and a scale bar for reference.

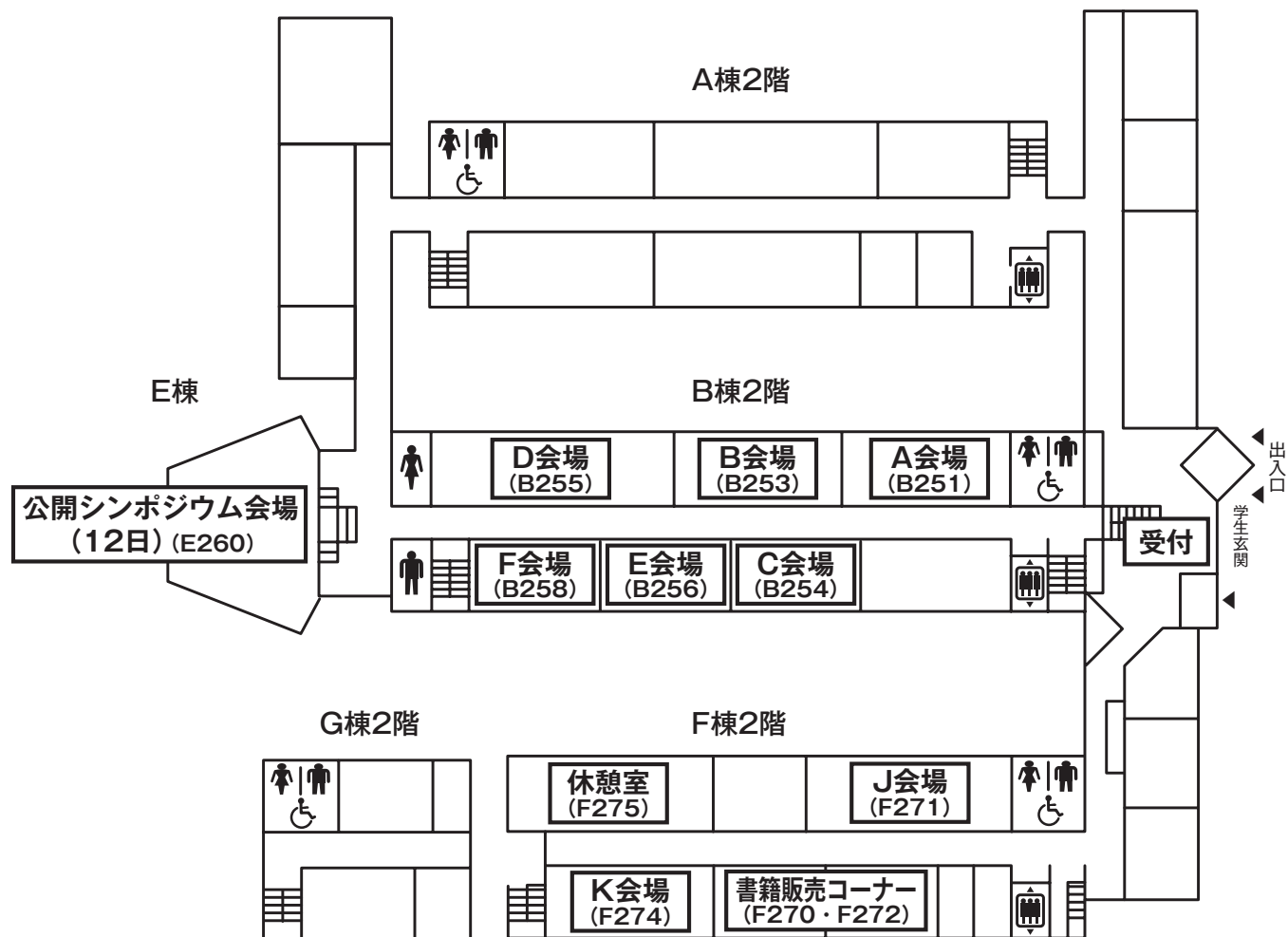
総合教育研究棟
シンポジウム会場(12日)
研究発表会場(13日)

生協第一食堂
懇親会会場(12日)

←内野駅 西門 中門 旧正門 正門 新潟大学前駅→

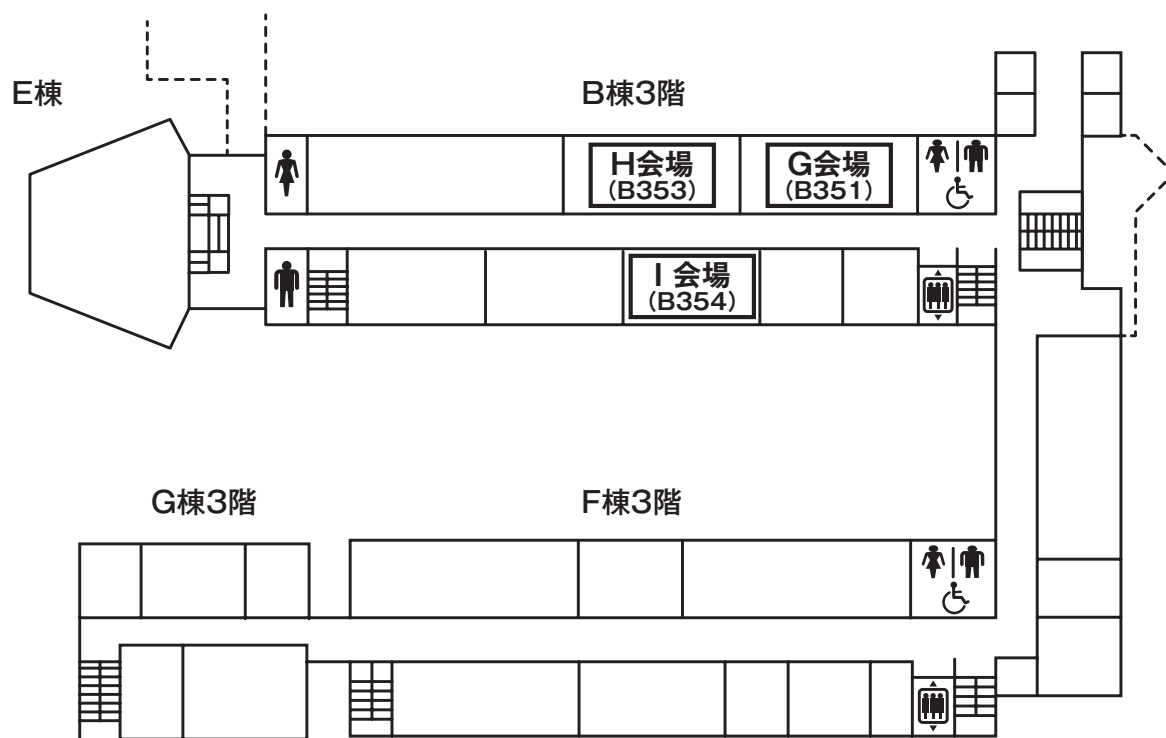
《研究発表会場配置図・2階》

2階は、総合教育研究棟のB棟とF棟の2棟に会場を配置しています。



《研究発表会場配置図・3階》

3階の会場は総合教育研究棟のB棟のみ（G~H会場）です。



◆ 年会参加者の皆さまへ

□ 年会受付

- ▽ 受付では、お名前をおっしゃっていただいたうえ、研究発表要旨集と名札をお受け取りください。
- ▽ 当日の参加申し込みをされる方は、「当日申し込み受付」にてお申込みください。当日の 参加費用は、年会参加費 5, 000 円、懇親会参加費 6, 000 円です。
- ※ 事前申込みの状況から、当日申し込み受付は大変混み合うことが予想されております。ご了承ください。

□ 名札

- ▽ 会場では、常時、名札をお付けください。
- ▽ 懇親会に参加される方、および、あらかじめお弁当の代金を振り込まれた方は、懇親会参加券・弁当引換券のほか、シールのついた名札をお渡ししますので、**シールをはがさないでください。**
- ▽ 名札は、お帰りの際に、スタッフまたは回収箱へお返しください。

□ 懇親会

- ▽ 懇親会は、12 日 (土)18:30 より、生協第一食堂にて行います。
- ▽ 懇親会場に入場する際には、受付で配付する「懇親会参加券」を、会場入り口の係にお渡しください
- ▽ 当日、参加を申し込まれる方は、「当日申し込み受付」にてお申込みください。参加費 は 6,000 円です。
- ▽ 懇親会終了後は、新潟駅万代口までのバスを用意します。スタッフがご案内いたしますのでご利用ください。
- ▽ 懇親会会場にはクロークを設けます。ただし、貴重品などの管理は各自の責任において行ってください。盗難・紛失・毀損などについて、実行委員会としては一切責任を負いかねますので、ご了承ください。

□ 食事

- ▽ 構内の食堂は営業していません。大学構内のローソンや会場周辺のコンビニなどをご利用ください。また、構内での食事の際には、休憩室 (F275)、各発表会場 (お昼休みのみ) を適宜ご利用ください。

□ 昼食弁当（事前注文）

- ▽ お弁当は、13日 (日) 11 時 45 分から、受付にて引換券と交換する方式でお渡しします。なお、お弁当の当日申し込みは受けかねますのでご了承ください。

□ 喫煙場所

- ▽ 新潟大学の敷地内はすべて禁煙となっております。喫煙場所はありません。大学構内でのたばこはご遠慮ください。

□ 書籍・研究雑誌コーナー

- ▽ 12 日・13 日の両日、F270・F272 教室に書籍・研究雑誌コーナーを設けます。

場所: F270・F272 教室

時間: 土曜 12:30～17:00 / 日曜 10:30～15:00

□ 抜き刷り配布コーナー

- ▽ 抜き刷り配布コーナーを休憩室 (F275) に設けます。配布希望の方はご持参ください。なお、配布コーナーは 13 日 (日) 16 時に残部を撤去いたしますのでご注意ください。

□ その他

- ▽ 発表会場内では、携帯電話の電源を必ずお切りください。
- ▽ 会場内で何かご不明な点がございましたら、スタッフまでおたずねください。

◆ 個人発表の皆さまへ

□ 発表受付（13 日）

- ▽ 発表者は、発表の 30 分前までに発表会場の前で受付をお済ませください。ただし、午前最初の発表者は 9 時 15 分まで、午後最初の発表者は 12 時 45 分までにお申し出ください。
- ▽ 発表者は、前の発表が始まるまでに発表会場の「次発表者席」に着席のうえ待機してください。ただし、午前最初の発表者は 9 時 20 分より、午後最初の発表者は 12 時 50 分より待機してください。

□ 配布資料

- ▽ 配布貸料がある場合は、あらかじめ 50 部以上をご用意のうえ、発表受付時に会場担当者にお渡しください。
- ▽ 各発表会場の座席数は、A 会場（138 人）、B 会場（138 人）、C 会場（63 人）、D 会場（240 人）、E 会場（63 人）、F 会場（63 人）、G 会場（38 人）、H 会場（38 人）、I 会場（63 人）、J 会場（50 人）、K 会場（80 人）です。
- ▽ 配布貸料の事前送付および当日の複写はお受けすることはできません。

□ 使用機材

- ▽ 使用できる機材は、PC 用液晶プロジェクタ、書画カメラのみとなっています。
- ▽ PC は各自ご持参ください。
- ▽ 液晶プロジェクタへの接続方式は、VGA 方式（D_sub15 ピン〔ミニ〕端子）のみとなっております。持参する PC の接続方式をご確認ください。Mac 機ご使用の方は、PC 本体とともに対応する変換アダプタをご持参ください。

□ 発表時間

- ▽ 発表 20 分・質疑応答 5 分とし、以下のようにベルで時間をお知らせします。終了時間は厳守くださいますようお願いいたします。

17 分経過 ベル 1 回 (発表終了 3 分前)

20 分経過 ベル 2 回 (発表終了)

25 分経過 ベル 3 回 (質疑応答終了)

- ▽ 発表者や座長の交代、聴講者の移動のため、各発表の間に 5 分の時間をとります。
この時間は発表延長のための時間ではありませんので、ご注意ください。
- ▽ 発表者の責任により発表の開始が遅れた場合には、定刻の範囲内で発表・質疑応答を行ってください。

◆ 分科会・グループ発表の皆さまへ

□ 発表受付

- ▽ 分科会・グループ発表の代表者は、メンバーが揃ったことをご確認のうえ、発表予定時刻の 15 分までに会場担当者にお申し出ください。
- ▽ 分科会・グループ発表の時間枠は、「発表者×30 分－5 分」になります。進行、質問の受付、時間配分などの運営は、決められた時間内で各団体で自由に決めてください。終了時間は厳守でお願いいたします。

□ 配布資料・使用機材

- ▽ 取り扱いは、個人発表と同様です。

◆ 座長の皆さまへ

- ▽ ご担当の発表が始まる 30 分前までに各会場担当者にお申し出のうえ、発表会場の「次座長席」にご着席ください。ただし、午前最初の座長の方は 9 時 20 分より、午後最初の座長の方は 12 時 50 分より待機してください。
- ▽ 「発表時間」に記した時間通りにタイムキーパーがベルを鳴らします。このベルを参考にして、発表が時間通りに行われるようご配慮をお願いします。
- ▽ 進行中に、問題が生じた場合は、各会場担当者へお申し付けください。

13日(日) 研究発表タイムテーブル

会場名	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
教室番号	B251	B253	B254	B255	B256	B258
時間 / 定員	138	138	63	240	63	63
①9:30 -9:55	亀崎 敦司	早坂 優子	小熊 誠	靄 理恵子	松村 薫子	舟山 直治
②10:00 -10:25	小出 亜耶子	藤井 紘司	齋藤 典子	山下 裕作	佐山 淳史	川邊 絢一郎
③10:30 -10:55	下本 英津子	湯 紹玲	関口 知誠	田村 和彦	高橋 史弥	林 承緯
④11:00 -11:25	中西 裕二	中村 文音	立柳 聡	島村 恭則	鈴木 洋平	川野 和昭
⑤11:30 -11:55	阿部 友紀	阿部 宇洋	真鍋 恵利	関 一敏	李 聰	山田 厳子

⑥13:00 -13:25	伊東 寛	≪日本民俗学会 国際シンポジウム≫ 無形文化遺産政策 のホットスポット・中国 —中国民俗学の 経験から学ぶ— 菅豊 陳勤建 葉濤 陳志勤 施愛東	和田 健	柏木 亨介	板橋 春夫	遠藤 健悟
⑦13:30 -13:55	高木 大祐		石本 敏也	刀根 卓代	藤崎 咲子	関口 健
⑧14:00 -14:25	≪分科会≫ 川をめぐる 民俗の現在 —流域の歴史・ 文化と現代社会—		柳光 里香	三村 宜敬	香西 美香	佐島 隆
⑨14:30 -14:55	*岩野 邦康 北村 敏 堀 充宏			森野 奈緒也	岩野 笙子	平野 孝國
⑩15:00 -15:25						
⑪15:30 -15:55						

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	会場名
B351	B353	B354	F271	F274	教室番号
138	138	63	150	80	定員 / 時間
≪グループ発表≫ 地域における 民俗学実践 の可能性 市川 秀之 岸本 誠司 *森本 一彦	谷岡 優子	大沼 知	陳 玲	湯川 洋史	①9:30 -9:55
	坂本 要	達 志保	沼田 愛	平木 琢	②10:00 -10:25
	清野 知子	山中 健太	政岡 伸洋	≪グループ発表≫ 物に託して 伝承する 及川 高 佐藤 喜久一郎 *由谷 裕哉	③10:30 -10:55
小島 孝夫	田村 明子	岸本 昌良	佐治 史		④11:00 -11:25
川野 裕一郎	毛 久燕	玄蕃 充子	坂井 美香		⑤11:30 -11:55

小林 宏至	中里 亮平	古谷野 洋子	≪グループ発表≫ 文化財レスキュー と生活文化 -被災地域から今、 振り返るべきもの- 加藤 秀雄 小池 淳一 *葉山 茂	熊澤 美弓	⑥13:00 -13:25
矢島 妙子	福 寛美	小掠 裕樹		平井 芽阿里	⑦13:30 -13:55
郷堀 ヨゼフ	北川 有紗			加賀谷 真梨	⑧14:00 -14:25
青木 啓将			福井 庸子	渡部 鮎美	⑨14:30 -14:55
			中野 紀和	奥村 麻由美	⑩15:00 -15:25
					⑪15:30 -15:55

*はグループ発表及び分科会の代表者

〔A会場〕 B251教室（定員138名）

- 9:30- 9:55 亀崎 敦司 （福岡県）
風止めの旗をめぐるト占の諸相
—北部九州地域での事例から—
- 10:00-10:25 小出 亜耶子 （北海道）
日本民俗における小型肉食獣
- 10:30-10:55 下本 英津子 （愛知県）
十六輪中における水利用の多元構造
—水防と水利用の狭間で—
- 11:00-11:25 中西 裕二 （東京都）
船霊のおこし方
—和歌山県東牟婁郡古座の事例より—
- 11:30-11:55 阿部 友紀 （宮城県）
龍澤山善宝寺における霊験の意味

昼 休 憩

- 13:00-13:25 伊東 寛 （奈良県）
狼信仰と俗信
- 13:30-13:55 高木 大祐 （千葉県）
鳥羽市答志島の講の現状
—講と漁民信仰の関係考察に向けて—

- 14:00-15:25 <<分科会>>川をめぐる民俗の現在
—流域の歴史・文化と現代社会—
代表者: 岩野 邦康
岩野 邦康 （新潟県）
木造和船をめぐる民俗と貨客輸送の地域史
—新潟県蒲原平野を事例として—
北村 敏 （東京都）
大田区まちなみ・まちかど遺産／六郷用水
—消えた農業用水路を都市に求めて—
堀 充宏 （東京都）
下肥を運ぶ船
—東京東郊の事例から—

〔B会場〕 B253教室（定員138名）

- | | |
|-------------|---|
| 9:30- 9:55 | 早坂 優子 （沖縄県）
現代沖縄における「霊園型墓地」とその利用者
—新しく墓を建てるということ— |
| 10:00-10:25 | 藤井 紘司 （東京都）
絶家の民俗
—沖縄波照間における預かり墓と焼香地 |
| 10:30-10:55 | 湯 紹玲 （滋賀県）
志摩地方のムラの盆行事と総位牌 |
| 11:00-11:25 | 中村 文音 （奈良県）
奈良県生駒地方の先祖供養
—御回在とモリ信仰— |
| 11:30-11:55 | 阿部 宇洋 （山形県）
地域からみるモリ供養
～山形県庄内町三ヶ沢の事例～ |

昼 休 憩

- | | |
|-------------|--|
| 13:00-15:55 | <p>《日本民俗学会国際シンポジウム》
無形文化遺産政策のホットスポット・中国
—中国民俗学の経験から学ぶ—</p> <p>代表者：菅 豊
菅 豊 （東京大学）
中国の無形文化遺産から学ぶために</p> <p>陳勤建 （華東師範大学）
民俗学者と現代中国の無形文化遺産保護</p> <p>葉 濤 （中国社会科学院）
中国民俗学会と中国の無形文化遺産保護業務</p> <p>陳志勤 （上海大学）
地方の無形文化遺産保護およびその多様な主体の役割について
—「紹興舜王廟会」を例に—</p> <p>施愛東 （中国社会科学院）
無形文化遺産保護運動において民俗学が直面する諸問題</p> |
|-------------|--|

〔C会場〕 B254教室（定員63名）

- | | |
|-------------|--|
| 9:30- 9:55 | <p>小熊 誠 （神奈川県）</p> <p>“間(はざま)”の民俗</p> <p>—養子制度から沖縄の門中を再検討する—</p> |
| 10:00-10:25 | <p>齋藤 典子 （東京都）</p> <p>贈与行為[ツキアイ]と協働作業[テツタイ]に見る須崎海村の社会構造</p> |
| 10:30-10:55 | <p>関口 知誠 （神奈川県）</p> <p>青年集団の変遷</p> <p>—徳島県海部郡牟岐町を事例に—</p> |
| 11:00-11:25 | <p>立柳 聡 （東京都）</p> <p>奥会津一山間農村の嫁の里帰り慣行</p> <p>—伝統的な実態と背景の考察—</p> |
| 11:30-11:55 | <p>真鍋 恵利 （埼玉県）</p> <p>十日夜にみられる子ども集団についての研究</p> |

昼 休 憩

- | | |
|-------------|---|
| 13:00-13:25 | <p>和田 健 （千葉県）</p> <p>生活改善規約を持った更生指定村</p> <p>—より強化された生活習俗の系統化—</p> |
| 13:30-13:55 | <p>石本 敏也 （茨城県）</p> <p>集落の再編</p> <p>—新潟県東蒲原郡のショウキサマ祭祀の継承—</p> |
| 14:00-14:25 | <p>柳光 里香 （神奈川県）</p> <p>神社合祀と地域社会</p> <p>—三重県松阪市飯南・飯高町を事例に—</p> |

〔D会場〕 B255教室（定員240名）

- 9:30- 9:55 靄 理恵子 （鳥取県）
瀬川清子の研究における実践性
- 10:00-10:25 山下 裕作 （熊本県）
ウオノギリ多目的ダム上流域におけるアプライドな民俗調査
—私は「民俗学者」として海外で何ができるだろうか？—
- 10:30-10:55 田村 和彦 （福岡県）
中国における非物質文化遺産運動のもたらした民俗学的困惑
—陝西省の事例から—
- 11:00-11:25 島村 恭則 （兵庫県）
フォークロア研究(folkloristics)とは何か
—「民俗学」を再定義する—
- 11:30-11:55 関 一敏 （福岡県）
「無事」の民俗
—福岡市をフィールドにして—

昼 休 憩

- 13:00-13:25 柏木 亨介 （東京都）
歴史のなかの個人
—阿蘇神社宮司の近現代—
- 13:30-13:55 刀根 卓代 （東京都）
瀬川清子の労働観
——『中央婦人問題会議農村委員会』1950年報告を中心に——
- 14:00-14:25 三村 宜敬 （東京都）
村上清文による三面調査の検証
- 14:30-14:55 森野 奈緒也 （東京都）
70年代以降の口承文芸研究の動向
—学会誌を中心に—

〔E会場〕 B256教室（定員63名）

- | | |
|-------------|--|
| 9:30- 9:55 | 松村 薫子 （広島県）
蔵を残す人々
—広島県三次市の「卑弥呼蔵」の事例から— |
| 10:00-10:25 | 佐山 淳史 （千葉県）
義人・義民の祭祀・顕彰活動に関する一考察
—鈴木三公を事例として— |
| 10:30-10:55 | 高橋 史弥 （北海道）
北海道へ移住した炭鉱労働者の墓建立にみる意識変化
—三笠市幌内墓地・弥生墓地の友子の墓より— |
| 11:00-11:25 | 鈴木 洋平 （埼玉県）
続けることとは何か
—佐渡における「新仏の墓にむしろを被せること」の継続— |
| 11:30-11:55 | 李 聰 （東京都）
「七月半」にまつられる霊
——中国湖北省孝感市の事例を中心に—— |

昼 休 憩

- | | |
|-------------|--|
| 13:00-13:25 | 板橋 春夫 （群馬県）
近代化の中の産屋習俗
—山形県西置賜郡小国町大宮の産屋の事例から— |
| 13:30-13:55 | 藤崎 咲子 （東京都）
双子にまつわる俗信 |
| 14:00-14:25 | 香西 美香 （東京都）
厄年習俗の研究 |
| 14:30-14:55 | 岩野 笙子 （新潟県）
寒倉講における水の力
—新潟県加茂市七谷地区黒水の事例を中心として— |

〔F会場〕 B258教室（定員63名）

- | | |
|-------------|---|
| 9:30- 9:55 | 舟山 直治 （北海道）
川下祭
—積丹町余別の四半世紀と今後— |
| 10:00-10:25 | 川邊 絢一郎 （秋田県）
秋田県湯沢市・東鳥海神社と虫除けの札
—その信仰圏と虫送り行事との関係について— |
| 10:30-10:55 | 林 承緯 （台湾）
戦前台湾における稻荷信仰の成立 |
| 11:00-11:25 | 川野 和昭 （鹿児島県）
祭りの変遷と神々の行方
—大隅半島の祭りの習合例をとおして— |
| 11:30-11:55 | 山田 厳子 （青森県）
「授かるオシラサマ」とく文脈
—く信仰くが生起するく場くをめぐって— |

昼 休 憩

- | | |
|-------------|--|
| 13:00-13:25 | 遠藤 健悟 （宮城県）
東北地方における町場の祭りとその民俗的背景
—山形県鶴岡市の大山犬祭りを事例に— |
| 13:30-13:55 | 関口 健 （東京都）
法印様と滅罪供養
—羽前上山の神葬について— |
| 14:00-14:25 | 佐島 隆 （大阪府）
トルコ共和国における「呪術」の変化と持続 |
| 14:30-14:55 | 平野 孝國 （新潟県）
ローマ法王の赤い靴と襷袢の民俗について |

〔G会場〕 B351教室（定員138名）

9:30-10:55 《グループ発表》地域における民俗学実践の可能性
代表者: 森本 一彦
市川 秀之 （滋賀県）
集落博物館における民俗学の実践
岸本 誠司 （山形県）
飛島の離島振興と民俗学実践の可能性
森本 一彦 （大阪府）
地域文化圏研究の可能性
—高野山を中心とする文化圏研究を事例として—

11:00-11:25 小島 孝夫 （埼玉県）
市町村合併と地域社会の変容
—徳島県那賀郡那賀町を事例として—

11:30-11:55 川野 裕一郎 （東京都）
文化遺産制度と民俗芸能
—島根県佐陀神能の事例—

昼 休 憩

13:00-13:25 小林 宏至 （東京都）
日本社会における現代民俗としての「風水」

13:30-13:55 矢島 妙子 （東京都）
ローカルヒーローのいる風景
—地域住民にとっての「薩摩剣士隼人」—

14:00-14:25 郷堀 ヨゼフ （新潟県）
地域おこし事業における文化的・宗教的行事の役割
—チェコ西部スチーブロ地域と新潟県桑取地域の事例を中心に—

14:30-14:55 青木 啓将 （埼玉県）
モノがくみえるようになること
—日本刀の鑑賞と「よい刀」—

〔H会場〕 B353教室（定員138名）

- 9:30- 9:55 谷岡 優子 （兵庫県）
 地方花柳界の民俗学
 —〈芸〉と〈色〉の境界線をめぐって—
- 10:00-10:25 坂本 要 （神奈川県）
 囃しもの・傘ブク・吊り下げもの
- 10:30-10:55 清野 知子 （東京都）
 飛島の百合若伝説
- 11:00-11:25 田村 明子 （埼玉県）
 伝承者集団の変遷と地域社会
 —土師一流催馬楽神楽を事例として—
- 11:30-11:55 毛 久燕 （新潟県）
 中国における民間芸能集団化の試み
 ——舟山群島「東昇木偶劇団」を例として——

昼 休 憩

- 13:00-13:25 中里 亮平 （東京都）
 戦う山車と進化する祭礼
 —秋田県仙北市角館のお祭りの事例から—
- 13:30-13:55 福 寛美 （千葉県）
 『おもろさうし』の刀
 —おもろ世界の刀と利権—
- 14:00-14:25 北川 有紗 （東京都）
 呪術としての垣間見

〔I会場〕 B354教室（定員63名）

- | | |
|-------------|---|
| 9:30- 9:55 | 大沼 知（宮城県）
宮城県奥松島における生業の展開とその背景 |
| 10:00-10:25 | 達 志保（愛知県）
高度経済成長期における農家長男の選択 |
| 10:30-10:55 | 山中 健太（京都府）
手記にみる日常生活
—保健婦と農婦が綴る生活変化の断面— |
| 11:00-11:25 | 岸本 昌良（東京都）
割地制度と集落営農
—長岡市釜ヶ島の事例より— |
| 11:30-11:55 | 玄蕃 充子（東京都）
養蜂の多様化
—養ほう振興法の改正をめぐって— |

昼 休 憩

- | | |
|-------------|--|
| 13:00-13:25 | 古谷野 洋子（茨城県）
南島の農耕文化
—波照間島における畑作と稲作— |
| 13:30-13:55 | 小掠 裕樹（新潟県）
手引きろくろの構造について
—構造の地域差と木地屋の移住について— |

〔J会場〕 F271教室（定員150名）

- | | |
|-------------|---|
| 9:30- 9:55 | 陳 玲（新潟県）
中越震災後に、山古志三ヶ地区の合同盆踊りは、
どのように作り上げられてきたのか？ |
| 10:00-10:25 | 沼田 愛（宮城県）
震災下における民俗芸能の展開 |
| 10:30-10:55 | 政岡 伸洋（宮城県）
被災地の今をいかに理解すべきか
—宮城県本吉郡南三陸町戸倉波伝谷の事例より— |
| 11:00-11:25 | 佐治 史（福島県）
震災と青物小売り
—何が変わり、何が変わらなかったのか— |
| 11:30-11:55 | 坂井 美香（新潟県）
福島県田村市都路地区から、聞き書き
—緊急時避難準備区域解除地域の今— |

昼 休 憩

- | | |
|-------------|---|
| 13:00-14:25 | <p>《グループ発表》文化財レスキューと生活文化
—被災地域から今、振り返るべきもの—</p> <p>代表者:葉山 茂</p> <p>加藤 秀雄（千葉県）
三浦家が経験した1938年—1945年
被災資料にみる戦争と家族</p> <p>小池 淳一（東京都）
オオイ(大本家)とは何か
—津波による被災後の民俗像の再構築を通して—</p> <p>葉山 茂（千葉県）
生活の記憶とモノ・場所・身体
—宮城県気仙沼市小々汐における被災生活用具・文書の救援活動から—</p> |
|-------------|---|

- | | |
|-------------|--|
| 14:30-14:55 | 福井 庸子（東京都）
火山とともに生きる
—東京都三宅島の災害復興と変化— |
| 15:00-15:25 | 中野 紀和（東京都）
復興と変化:全島リニューアルした島
—福岡県西方沖地震の被災地・玄界島の復興過程— |

〔K会場〕 F274教室（定員80名）

9:30- 9:55 湯川 洋史 （熊本県）
 地域と水利遺構
 ―熊本県菊池郡菊陽町鼻ぐり井手をめぐる人々の活動を例として―

10:00-10:25 平木 琢 （熊本県）
 生存戦略としての遺跡活用
 ―植木町の西南戦争遺跡活用をめぐって―

10:30-11:55 ≪グループ発表≫物に託して伝承する
 代表者:由谷 裕哉
 及川 高 （茨城県）
 テクノロジーと現代産業にみる歴史化の論理
 佐藤 喜久一郎（群馬県）
 高麗神社―フォークロリズムの風景―
 由谷 裕哉 （石川県）
 アニメ聖地における震災復興祈願絵馬

昼 休 憩

13:00-13:25 熊澤 美弓 （愛知県）
 〈偉人〉伝承生成の人物交渉誌と地域史
 ―愛知県枝下用水の事例をもとに―

13:30-13:55 平井 芽阿里 （愛知県）
 伝承の正統性に関する考察
 ―本土在住の沖縄県出身者の事例―

14:00-14:25 加賀谷 真梨 （大阪府）
 転回するくしがらみ>
 ―沖縄・八重山諸島における高齢者福祉活動を事例に―

14:30-14:55 渡部 鮎美 （千葉県）
 ムラに戻る女性たち
 ―新潟県十日町市松代・松之山の冬期移住

15:00-15:25 奥村 麻由美 （東京都）
 重要伝統的建造物群保存地区と地域社会
 ―長野県奈良井宿を事例として―

MEMO

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

日本民俗学会第65回年会実行委員会

年会会長 岩本 通弥

実行委員長 池田 哲夫

実行委員 赤羽 正春・飯島 康夫・池田 孝博・岩野 邦康・岩野 笙子・小野 博史・坂井 摂子・
坂井 美香・大楽 和正・陳 玲・中野 泰・三井田 忠明・森 行人・八木橋 伸浩・
山崎 進・渡邊 久美子・渡邊 三四一

日本民俗学会第65回年会実行委員会事務局
〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050
新潟大学人文学部民俗学研究室気付
TEL/FAX 025-262-6517
E-mail nenkai65@gmail.com
URL <http://www.nenkai.fsjnet.jp/>